

○ 微生物課 ウイルス担当

微生物課ウイルス担当では、感染症や食中毒に係る病原微生物の試験検査を実施しました。

また、感染症発生動向調査及び感染症流行予測調査(日本脳炎)を実施し、感染症の動向を総合的に把握するとともに、検査・分析により感染症の予防及びまん延防止に努めました。

令和4年度の検査状況は、表1に示すとおりです。総検査数は、10,130件でした。

表1 ウイルス担当試験検査(令和4年度)

項目	検査件数	検 体 数				延検査項目数
		行政検査	依頼検査	調査研究	小 計	
食中毒・感染症集団発生調査	22				22	107
重症熱性血小板減少症候群	45				45	45
リケッチア	75				75	150
リケッチア抗体検査	8				8	16
急性弛緩性麻痺	5				5	5
エイズ(HIV検査)	4				4	9
風しん・麻しん	6				6	12
インフルエンザ	3				3	6
無菌性髄膜炎	2				2	10
新型コロナウイルス	8,840				8,840	9,524
感染症発生動向調査				57	57	166
感染症流行予測調査				80	80	80
				日本脳炎 感染源調査		
計	9,010	0	137	9,147	10,130	

1 行政検査

(1) 食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例

令和4年度の検査状況は、表2に示すとおりです。5事例、22検体(便22)について調査しました。

表2 食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例とウイルス検出状況一覧(令和4年度)

No.	依頼日	原因施設 (推定)	管轄 保健所	検体	PCR検査結果			
					検出ウイルス	検体数	陽性数	遺伝子型・亜型
1	2023.1.8	飲食施設(県外)	唐津	便	(-)	1	0	
2	2023.2.27	飲食施設(県外)	佐賀中部	便	NoV	1	1	G II
3	2023.3.7	飲食施設	佐賀中部	便	(-)	9	0	
4	2023.3.16	障害支援施設	杵藤	便	(-)	3	0	
5	2023.3.23	老人福祉施設	佐賀中部	便	(-)	8	0	

(2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)検査

SFTS 疑い患者の検体について、RT-PCR 法による検査を 45 事例(45 検体)について実施し、3 事例(3 検体)の陽性を確認しました。

(3) リケッチア検査

日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチア疑い患者の検体について、痂皮及び急性期血液から抽出した DNA を用いた PCR 法による検査を 51 事例(75 検体)について実施した結果、日本紅斑熱 19 事例(29 検体)の陽性を確認しました。

また、PCR 陰性事例のうち 4 事例のペア血清(急性期および回復期血清)について、宮崎県衛生環境研究所へつつが虫の病原体 *O.tsutsumugamushi* (5 株)及び日本紅斑熱の病原体 *R.japonica* (YH 株)の間接蛍光抗体検査を依頼した結果、2 事例 *R.japonica* (YH 株) 陽性でした。

(4) 急性弛緩性麻痺検査

急性弛緩性麻痺疑い患者の検体を、RT-PCR 法による検査を 1 事例(5 検体)について実施した結果、エンテロウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所へ同事例(2 検体)のウイルス分離試験を依頼した結果、ポリオウイルス分離試験は陰性でした。

(5) エイズ(HIV検査)

佐賀県特定感染症検査事業の HIV 抗体検査実施マニュアルに基づき、血清 4 検体について二次スクリーニング検査(ELISA 法、PA 法)及び確認検査(ウエスタン・ブロット法、イムノクロマト法)を実施した結果、1 件の陽性を確認しました。

(6) 風しん・麻しん

風しん及び麻しん疑い患者の検体について、リアルタイム RT-PCR 法による検査を 2 事例(6 検体)実施した結果、風しんウイルス及び麻しんウイルスは検出されませんでした。

(7) インフルエンザ

インフルエンザ疑い患者の検体について、リアルタイム RT-PCR 法による検査を 2 事例(3 検体)実

施した結果、1事例(2検体)からAH3が検出されました。

(8) 無菌性髄膜炎検査

無菌性髄膜炎疑い患者の検体について、PCR法及びRT-PCR法による検査を1事例(2検体)について実施した結果、エンテロウイルス、パルボウイルス、HSVグループ、VZVグループ、アデノウイルスは検出されませんでした。

(9) 新型コロナウイルス検査

新型コロナウイルスの検査は、8,840検体について実施しました。新型コロナウイルス感染症疑い患者の検体について、リアルタイムRT-PCR法による検査を8,329検体実施し、1,389検体の新型コロナウイルス陽性を確認しました。

陽性になった検体及び県内医療機関で採取された検体のうち、1,195検体についてゲノム解析を実施し、1,183検体の系統分類が判明しました。

事例・資料編:佐賀県における新型コロナウイルス検出状況(令和4年度)参照

2 調査研究

(1) 感染症発生動向調査事業

7病原体定点など(表3)から、令和4年度は57検体が搬入され、疾患名はインフルエンザ、咽頭結膜熱及び手足口病などでした。

検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス、コクサッキーウイルス及びアデノウイルス等でした。

事例・資料編:佐賀県感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況(令和4年度)参照

表3 病原体定点の分類別医療機関数

	インフルエンザ	小児科	基幹
医療機関数	5	2	6

(2) 日本脳炎流行予測調査事業

日本脳炎ウイルスに対する豚の感染状況を分析し、その流行を推定することを目的として、ブタ80頭について日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査(感染源調査)を実施しました。

事例・資料編:感染症流行予測調査事業における日本脳炎感染源調査概要(令和4年度)参照

3 精度管理

検査の信頼性確保を目的として、外部精度管理に参加しました。

- (1) 厚生労働省外部精度管理事業「新型コロナウイルス(ウイルス遺伝子配列の解読・解析)」
- (2) 厚生労働省外部精度管理事業「新型コロナウイルスの核酸検出検査(リアルタイムRT-PCR法)」
- (3) 国立感染症研究所「ウイルス分離培養・同定技術実態調査」